

元ワーキングママがゆく③ 全国に先駆けた防災都市ヨコハマ

横浜市会議員 伏見ゆきえ

7月末に横浜市消防局の本部に伺いました。

そこでは、全国に先駆けた「安全、安心を実感できる防災都市ヨコハマ」を推進する取り組みの一つ、横浜型の救急システムについて話を聞きました。

横浜型救急システム

横浜市では、年間16万件的救急車の出場要請があり、そのため最も近くに救急車が出場中に、別の救急要請が重なって発生してしまい、より遠い救急車

が出場することもあります。

横浜市消防局では、緊急度・重症度識別（コールトリアージ）タッチパネル端末を用いながら、傷病者の緊急度・重症度を識別するシステムを取り入れています。

みです。

部隊は、救急隊及び消防隊に加え、ミニ消防隊が連携隊として編成されています。これによって、いち早い現場到着と十分な人員を投入することが可能となります。

例えば、救急隊が平均約9・8分かかるところ、ミニ消防隊は平均約5・8分で到着できます。

あらゆる災害への的確な対処

横浜市では、救急需要対策の推進（2億2370万円）の中で、高齢化の進展

年度は5億8500万円）の取り組みを進めます。

消防団員は、条例で定める定員8305人に対し、平成27年4月1日現在、7164人（定員に対し86・2%）となっています。平成9年度からは女性消防団員を採用し、910人の女性が活動しています。

地域防災の中核として、消防団はなくてはならない存在ですから、地域特性に応じた円滑な消防団活動が行える体制づくりを進めることが大切です。

まだ課題はありますが、市民の皆さんのご意見をお聞きしながら、これからも安全、安心の町づくりに取り組んでいきたいと思えます。



伏見ゆきえ

自民党戸塚区連合支部女性局長
1968年2月24日、川崎で誕生。2歳で横浜へ私立橋女子高等学校卒業、歯科医院に勤務、東京中央ヤクルト販売(株)ヤクルトレディーに、歯科医院に勤務、2015年横浜市会議員初当選

-----連絡事務所-----
戸塚区上倉田町389の102
☎045・443・5757 ☎045・443・5671
<http://fushimiyukie.com/>

傷病者の年齢、性別、呼吸や意識の状態などが5段階（A+、A、B、C+、C）に分類されたカテゴリーとして自動的に判別され、それに応じて出動する部隊の種類や規模を決定する仕組み

また、消防団の充実・強化（17億9041万円※昨